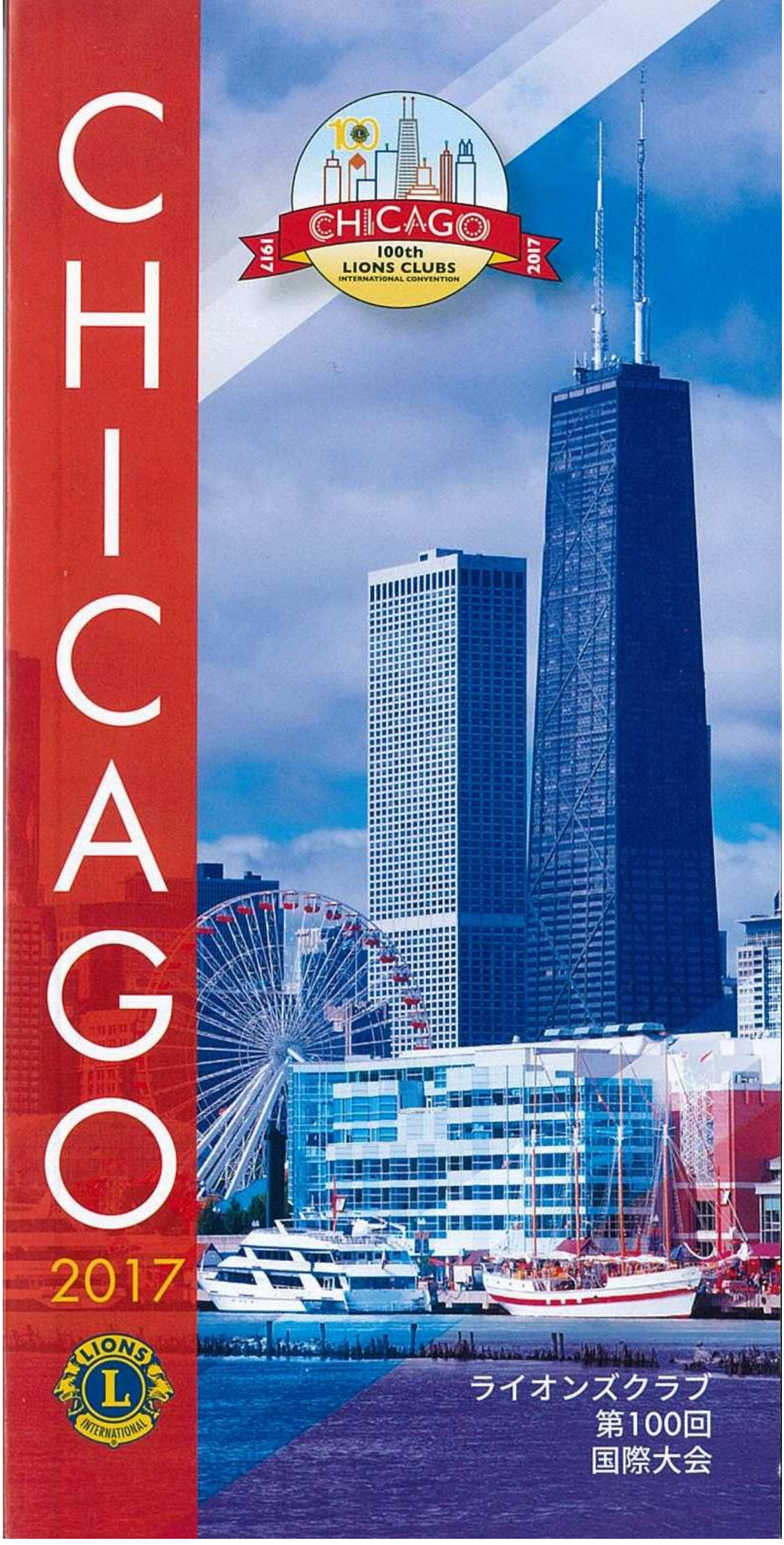


第100回シカゴ国際大会　参加報告特集

≪参加メンバー≫

森下雄一団長

L.　加藤誠也

L.　越智英明

L.　寺川治美

L.　花山志郎

LL. 花山育子

L.　徳増達史

LL. 徳増明子

第 100 回シカゴ国際大会日程

6月30日（金） 大会登録・地区ガバナーエレクト祝賀晩餐会
7月　1日（土） インターナショナルパレード
7月　2日（日） 開会式 ・ 各種セミナー ・ MD336 の夕べ
7月　3日（月） 各種セミナー・MJF昼食会・ガバナー晩餐会
7月　4日（火） 閉会式

～ 第 100 回シカゴ国際大会　西条LCツアー　日程 ～

6月29日（木） 松山空港より参加メンバー8名元気に出発
6月30日（金） ナイアガラの滝観光　or　シカゴ半日市内観光・大会登録
7月　1日（土） インターナショナルパレード
7月　2日（日） 終日フリータイム ・ MD336 の夕べに出席
7月　3日（月） ミルウォーキー観光・ハーレーミュージアム・ミラービール工場見学
7月　4日（火） 帰路へ
7月　5日（水） 羽田空港到着→国内線で松山空港へ　8名元気に帰国

6月第2最終例会（6／20開催）では盛大な壮行会で無事のシカゴツアーを皆で祝いました

原Lには立派な横断幕をいただき、ありがとうございました、いってきます！

2017年6月29日

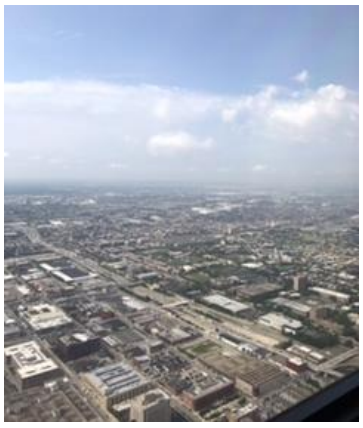
気温27℃　日本との時差－14時間　PM16：30

空路約12時間の空の旅を経てやっとシカゴ、オヘア国際空港に到着した。
この空港は1日の発着数が全米でも1，2と言われている。
天候が悪化しようものなら上空には約40機がスタンバイしているという。
空港内は国内外からの乗客でごったがえし、セルフチェックインから入国審査まで手間どり、出口まで2時間余りもかかった。
更にホテルまで車で1時間近くかかるので、ホテル到着後、夕食を済ませたのは午後10時を過ぎていた。とにかく疲れた。

6月30日

今日は私と森下Ｌ以外は早朝4時にナイアガラ観光に出発した。
私達は9時頃から市内観光に出かけた。現地に20数年滞在しているベテランガイドの宮下さんの案内で私達の他、福岡と静岡のクラブの人達と13名で実に充実した市内観光を楽しんだ。シカゴといえば禁酒法時代、街を牛耳っていた、アル・カポネのイメージが強く、治安が悪いと思われがちだが、現在のシカゴはアメリカ大都市の中でも治安のよい都市のひとつになっている。街の浄化にもつとめ、ゴミ・落書きの無いきれいな街だ。
碁盤の目の様に規則正しく通りが走っていることから、我が国の京都に似ているとまで云われている。また、ここは150年の近代アメリカ建築の縮図で摩天楼発祥の地でもある。
観光後ホテルまで送ってくれるというが、私たちは町歩きをしようと途中で降ろしてもらった。
昼食をピザの有名店でとり、町歩きを楽しんだ。町にはＬメンバーであふれていた。
ナイアガラ観光の一行が帰ったのは夜11時近くだった。にぎやかな声で目が覚めた。

6月30日（金）
シカゴ半日観光ツアー
～越智英明Ｌ＆森下雄一Ｌ～



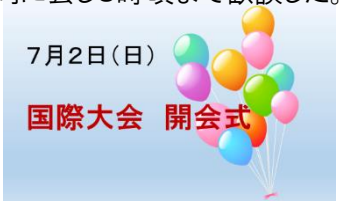
7月1日

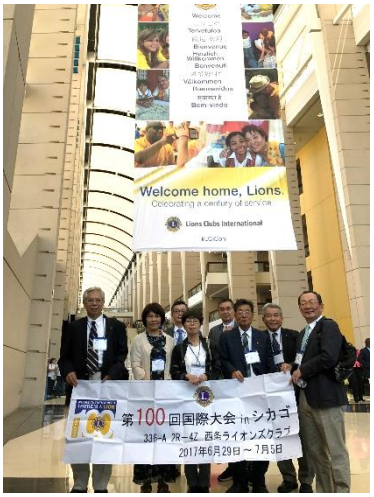
愈々パレード当日である。ホテル内外には各国のメンバーが色とりどりの衣装をまとい集まっている。私たちのハッピ姿も人目をひいた。我が国は2番目のスタートなので、ホテル近くの集合地区に向かうと顔見知りのメンバー達も来ていて歓談し、出発を待った。パレード中心の道路以外、特に横道はすべて大型車輌で遮断されていた。沿道には大勢の市民やＬ家族など手に手に小旗やプラカードを持ち、歓迎の声をあげ、我々もそれに答えるべく手を振り、町中は歓声の渦であった。二番目なので割と早く終わったので近くの店でコーラなど飲みながら各国の通過する様を見ていた。この後ホテルに戻り、ライオン像で有名なシカゴ美術館に行った。
ライオン像の前でさっそく記念写真を撮る。館内は広いので、時間と集合場所を決め自由行動をとった。昼食を館内のきれいなレストランでとり、しばしくつろいだ。

インターナショナルパレードは 100 周年を祝うムード一色でした。道路はブルドーザートラックで閉鎖されていました

7月2日

　さて、大会2日目。少し離れたコンベンションセンターに向かう。
シカゴはアメリカのほぼ中央に位置するので国際的な会議や見本市が、頻繁に行われることで有名だ。このマコーミックプレイスは世界最大の広さを誇る会場で、私たちが到着した時は既に始まっており国際会長の演説まっただ中だった。次いでゴア副大統領も登壇し、次々とスケジュールが消化されていった。いち早く花山 L が日本語対応のイヤホンを調達してくれたので助かった。終盤、来訪した各国の国旗が写し出されたがその多さに驚いた。
　最後に盲目の少年の歌う、アメリカ国歌で幕を閉じたが彼の歌声には心を打たれた。
素晴らしい、感動した。
この後タクシーに分乗し、チャイナタウンに向い少し遅い昼食をとった。ホテルに戻り、夕方6時30分よりの MD336のタベに出席した。会場はレストランの地階で役員はじめ約130人が一同に会し8時頃まで歓談した。





西条南中
伊藤愛梨（いとう　あいり）さん13歳

第29回国際平和ポスターコンテスト
大賞・優秀賞作品24点が展示ブースに展示されていました

≪MD336のタベ≫

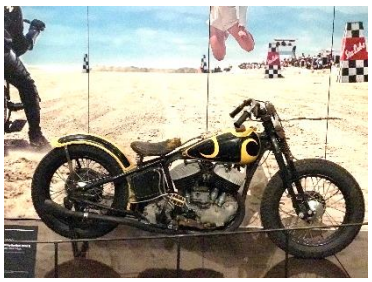
7月3日

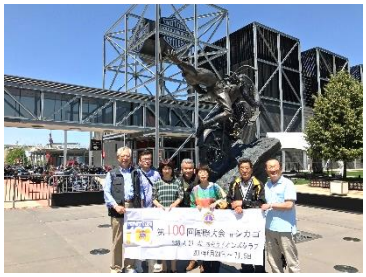
　目的の100周年記念事業も一応終了したので、予約しておいたハーレーミュージアムとミラーのビール工場見学に出かけた。約150km離れたウィスコンシン州にあり、私たちを乗せたミニバンは広大なハイウェイをひた走った。私は雄大な景色を見ながら持参した CD でルイ・アームストロングを聞きながら心地よい一刻にひたった。後席では皆、爆睡していた。
　ハーレーミュージアムには各方面からのライダーたちが各々ドレスアップしたバイクで次々と乗

りつけ、内も外も正にビッグアメリカンそのものだった。昼食を館内のモーターバーでとり次のビール工場に向かう。
思ったより近くにあり、ミラーの大きな看板が目をひいた。
ドイツからの移民フレデレック・ミラーが1855年に小さなビール工場を興してからこの方、大工場に至るまでをビデオで見せられ工場見学、そしてツアー最後に出来たての冷たいビールを何種類か試飲した。

再びイリノイ州に戻り最後のショッピングをした後、散歩しながらホテルに向った。途中、リバークルーズの最終便に間に合うというのでさっそく乗り込んだ。大変寒かったが、林立するビルの夜景を下から見上げる様は美しく、素晴らしいの一言だ。
ホテルに戻りパッキングを済ませベッドに就いたが、この一週間の出来事に思いをめぐらせ中々寝つかれなかった。

終わりにのぞみ、今回ほど充実した毎日を過ごせたことはかつてなかった様に思う。（全員の感想）そして何よりも森下団長が大変気を使ってくれて我々は安心して共に行動出来たことが何よりも大きかったと思う。
彼にまかせておけば何処へでも行けると思った。改めてお礼を申し上げたい。次回もこのベストメンバーで参加したいと願うばかりだ。





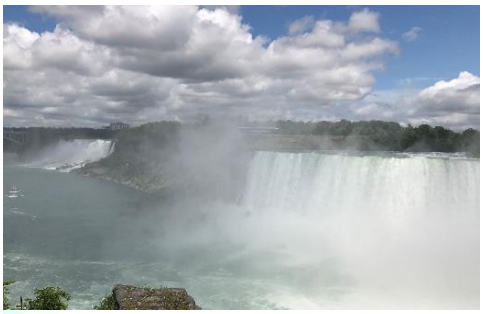
次回の国際大会は･･･
［ アメリカ ラスベガス ］
2018／6／29 ～ 7／3
♪ See you again ♪

シカゴ国際大会　特別版　ナイアガラホール観光　　L. 寺川治美

2017年6月29日より松山空港11:55発で羽田・成田・シカゴオヘア空港へと乗り継ぎ12時間の空の旅で辿り着きました。出国に少し時間がかかり、高速道路の渋滞に遭いながら、やっとホテルに到着したのは22時をまわっていました。私は一人、別のホテルでしたので、豪華な食事もなく、ホテル内のスターバックスでサンドイッチや果物を買い寂しく部屋で簡単に食事を済ませました。翌朝4時よりカナダ・ナイアガラの滝一日観光に出発なので、シャワーを浴びて寝ようとしましたが、寝付かれず少しの睡眠で出発することになりました。　早くに目が覚めたので、日本の旅行会社で予約済みの空港までの送りのタクシーを早めにロビーで待っていました。他のメンバーが別のホテルに宿泊しているのでラインや電話で連絡をとりながら、記念写真を撮ったりして待っていましたが、迎え時間の4時が来てもまだ来ない。予定時刻に20分位過ぎてもまだ来ない、フライト時間があるし他のメンバーも心配しているだろうと電話をしても今度は繋がらない。予約表の電話に連絡しても早朝なので留守電になっている。つたない英語でベルボーイにフライト時間6時だと何時にホテルを出ないと行けないか聞くと、もう限界ということなのでパニックになりながら、6人乗りのタクシーをやっと呼んで貰い、別のホテルで待つ5人のメンバーを拾い、タクシーの助手席に乗っているのが恐ろしいほどの猛スピードでオヘア空港まで行き、ツアーガイドもいない上に、初めての空港で英語もよく喋れない日本人6人で何とか搭乗手続きを済ませました。　初めての外国の町で日本の旅行会社を通じて予約したタクシーが来なかった。それも国際線の飛行機に乗る為の送りのタクシーが来なかった。あり得ない事です。後日談ですが7月3日の早朝4時頃にホテルの部屋に電話が掛かり6人をタクシーが待ってますとの事で起こされ、初めは何を言っているのか理解出来なかったのですが、結局現地で受けた旅行会社が迎えの日にちを間違えていたようです。フザケルナという感じです。又現地でタクシー代は空港まで約60ドルですが、日本の旅行会社を通して予約すると金額は約8倍でしたこれもフザケルナという感じです。何とか国際線エアーカナダ航空の搭乗に間に合いほっとしたのか、花山Lは外国人神父の3人連れとアイコンタクトでコミュニケーションをとる余裕などあり記念写真まで撮りました。保安検査を通り搭乗口に入って、驚いたのは犬が何匹も飼い主と一緒に普通に歩いているのです。そして機内に入ると普通に飼い主と一緒に乗っているのに驚きました。動物は荷物室じゃ無いのか？

カナダは訓練をしている犬は一緒に乗ることが出来るそうです。機内で隣になったカナダの女性が日本のかざぐるまを持っていたので、つい喋れないのに話しかけてしまって、簡単な単語で少し話しをして、ひと時仲良くなれた様な気がしました。2時間弱のフライトでカナダ・トロントピアソン国際空港に到着です。税関申告書が英語とフランス語の2枚渡されどちらに書けばよいのか迷っていますと、隣の女性がパスポートを出して！と言うことで書いてくれました。ラッキーでした。

カナダトロントピアソン空港に到着して又ひと騒動です。税関申告書を書いていない加藤Lが密入国扱いで別室に一人連れて行かれ20分位質問があったそうですが、何を言っているのか解らないが、とにかく日本語とジェスチャーでやっと開放してもらいカナダにようやく入国です。やればやれるんですね。

トロントピアソン空港からは日本から予約していたナイアガラ観光ツアーのチャータータクシーが迎えに来ていました。一路一時間半位かけてオンタリオ湖沿いにクィーン・エリザベス・ウェイをひた走り、日本人ドライバーに五大湖で一番小さなオンタリオ湖で四国位の大きさがある等と色々と観光ガイドを聞きながら向かいました。いろいろなトラブルがありましたがやっとナイアガラの滝に到着です。 オンタリオ州のナイアガラフォールズ市はアメリカとカナダの国境にあり、ナイアガラの滝はアメリカ滝とカナダ滝があり、カナダ滝の方が水量も多く雄大で一見の価値はあると思います。水しぶきをいっぱい浴びて20分位の滝を見る遊覧船「霧の乙女号」で川から滝を見学し、その後滝のそばに建つホテルで昼食です。このホテルの上層階から真下に滝が眺められて最高の展望でした。私はアメリカに来て初めて普通の食事をした様な気がしました。カナダはジャガイモが美味しいそうで、ポテトサラダをカナダ人は好んで食べるそうですが美味しかったです。 その後ナイアガラ・テーブルロックからナイアガラの滝を見学しました。静かで大きな川から雄大に一気に流れ落ちて滝になる景色は、遊覧船から滝を眺めるのとはまた違った感動がありました。ナイアガラの滝の周辺のナイアガラタウンは、プチラスベガスやテーマパークの様な建物を建てて観光客を滝だけじゃなく愉しませているそうですが、その為にナイアガラの滝は世界遺産には指定されないそうです。世界遺産より市は観光税が沢山入る方を選んでいるそうです。 ナイアガラの滝をたっぷり見物しナイアガラ・オン・ザ・レイクタウンという19世紀の英国の町並みが在る場所に立ち寄り少し町歩きをし、 帰り道カナダのワイナリー街道のひとつのワイナリーに立ち寄りアイスワインを試飲しました。デザートワインですので甘いですが、葡萄を木に生った状態で凍らせてストレスをかけると大変甘くなるそうです。その一粒から一滴の雫を取り出したのがアイスワインで、大変貴重なワインで、日本には未入荷だそうです。立ち寄ったワイナリーは世界のアイスワインコンテストで金賞を受賞しているワイナリーでした。早朝よりの移動と時差ぼけもまだ取れず、少しワインも入りましたので帰路のトロントまでは言うまでもなく皆さん夢の中でした。 トロント・ピアソン国際空港は空港内でカナダ出国、アメリカ入国の手続きを続けて行います。ツアーガイドはチェックインまでは手伝ってくれましたが、カナダからは出られないので、その後は又6人で出国・入国の税関審査です。スムーズに行くかに思われましたが、また最後に加藤Lが何かアメリカ入国で足止めされ質問されているようです。どういう訳か私が行く事になり、つたない簡単な英語で答えて入国出来ました。シカゴ・オヘア空港に着けば入国審査は要らないのでスムーズに出国し、タクシーを拾いホテルに帰って来たのは、もう夜の11時頃だったと思います。終わりよければすべて良しという事でしょうか？　ハプニングだらけでしたが楽しい日帰り旅行でした。

IN Canada　2日目